

# 新時代の企業スポーツをめぐる一考察

## A study on corporate sports for the future

1K06B134

指導教員 主査 作野誠一先生

田中 悠貴

副査 間野義之先生

### 【緒言】

近年の不況の煽りを受け、企業スポーツは衰退の一途を辿っている。この現状を見て「もったいない」という気持ちが生まれた。日本は欧米と比べ、スポーツに対して「する・観る・支える」の認識が低い。近頃、日本人のスポーツ実施率を上げるため、ヨーロッパ諸国の形を参考にした総合型地域スポーツクラブが注目されている。しかし認知率は低く、日本に根付くには時間がかかるものと思われる。このような環境の中でこのまま企業さえもスポーツ支援を打ち切ってしまったら、日本スポーツ界にとって悪影響が出てしまう。したがって、日本のスポーツ界には今までスポーツを支えてきた企業の力が必要であるのだが、かつて企業スポーツを支援する考えの主流であった、福利厚生や社内の一体感を出すためのツールという考え方が見直され「スポーツとは企業にとってどういう存在なのか」さえも明言されていないのが現状である。また、企業スポーツはチームスポーツを日本のトップレベルでプレーのできる唯一の受け皿となっている。こうした現状があるので、日本はまだまだ企業がスポーツを支援しなければならない環境にあるといえる。その中でスポーツが果たすことのできる役割を考えたい。

### 【研究方法】

まずは企業スポーツの起源を調べる。なぜ日本特有の企業スポーツという形が出来上がっていったのかを考察し、その過程と意義を見つめなおす。それにより、考察を深めることが可能

になると思われる。そして、運営形態が異なる3団体へのインタビューを行う。その3団体とは

クラブチーム...メインスポンサーを持つが、独立した運営母体で活動しているチーム

企業チーム...従来から存在する、企業が丸抱えして活動しているチーム

広域複合企業チーム...複数の企業または団体で組織しているチーム

以上3チームへのインタビューを通じ、示唆を得る。

### 【まとめ】

「企業スポーツの価値」という質問では、それぞれが違う考えを持っていた。ただ、総じて言えることは、企業が直接所有しているチームは社会貢献や社内への効果を期待しており、クラブチームはステークホルダーへの利益に重きを置いていることである。そして、その価値をどう裏付けているかという質問に対して、3団体とも「勝つ」ことで価値が得られるとの回答があった。勝利することが最も大きい価値なのは仕方がないと思ったが、そればかりになってしまうと、スポーツ界全体の発展には繋がらない。これからのことを考える場合、他団体や他競技との連携が必要になってくると感じた。

### 【今後の課題】

今回の調査では、スポーツチームを所有している企業やクラブの現場側の方、つまり直接チームを運営している担当者に話を聞いてきた。

しかし、実際にスポーツチームを所有しているのは企業やスポンサーしている会社なのである。実際にチームを所有している、企業側の考えを聞く必要があるだろう。また、かつてスポーツチームを所有していた企業に対し、なぜチームを手放したのか、なぜ価値を感じなくなったのか、などの調査をしなければならないと考える。